

R 4 年度 自己評価・学校関係者公表シート

学校法人徳野学園 とく幼稚園

1, 本園の教育目標

体育＊基本的生活習慣を身につけ、健康で明るい生活が出来る体力を育てたい

情操＊物事に感動する心や自然や動植物に興味や愛情を持つ豊かな人間性を育てたい

協調＊自分で学び、考え行動する力と自己を律しつつ他人と協力出来る社会性を育てたい

上記の 3 本を柱に、教師との信頼関係に支えられた中、友だちと充分に関わり一人ひとりが充実した園生活を展開していくよう配慮をした幼児教育を目指している。

2, 本年度、重点的に取り組む目標・計画

園外研修や園内研究に取り組む中で、研修参加での役割も学びつつ中堅職員は、リーダーを意識しながら研修の組み立てに協力し、自園での学びにつなげていく。また、行事の在り方を職員で見直し、再構築するとともに保護者の幼児教育理解を深め、園と家庭の連携体制を整える。

特別支援教育においては、様々なニーズの中、引き続き一人一人に合わせた支援体制を再確認し、市や療育機関と連携を取り幼小連携をスムーズに行う。

3, 評価項目の達成及び取り組み状況

評 価 項 目	取り組み状況
保育者の質の向上と連携した学び合いの体制作り	対面研修やリモート研修の使い分けを行い、時間の有効活用を意識し、研修後に職員間の中で、情報の発信を行い、共有をすることで、伝えることの技術を磨くことができるようになっていった。自らが不足している点に向き合い意見を求め、継続し問題解決に取り組んでいる。
家庭支援と園と家庭の連携	教育目標を保護者がわかりやすく行事や日々の保育の中で具体的に伝え、個人の様子を細かく記録をとる。担任だけでなく複数の教諭とやり取りを行い、個人と集団、園と家庭での様子の違いを伝え、また保護者の思いも聞き取りながら、共有を大切にしてきた。
特別支援教育と幼小連携	就学に関する意識を高めるためのお便りの発信や、説明など具体的に行い、個別での話し合いの時間をとり、回数を重ねてきた。また保護者の不安感をなくすためにどのように接したらよいか、家庭でのアドバイスをしてきた。職員全体で対応し、最終学年に関しては幼小連携が途切れない支援を心がけていった。

4，学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

中堅者との課題をしっかりと見直し、自己点検チェックシートの改善を行い、自己評価チェックを行い自分に足りないものを認識し、自己の実践の見直しを行っている。それぞれが本園の教育方針を各自が明確に理解し、評価項目について取り組む事が出来た。

また保護者に関しての教育方針の大切さをしっかりと伝える力がついてきている。たくさんさんの保護者の考え方をすることで、自分の言葉でのやり取りを行い、伝わるコミュニケーション力が養われた。

5，今後取り組む課題

課 題	具体的な取り組み方法
教材研究	昔ながらの遊びについて学び、良さを伝え、年齢に合わせた取り組み方法をどのような時期にどのようなタイミングで与えるかを明確にする。また子どもの変化に気づきながら、いろいろな視点で環境や遊びについて整え、工夫する。子どもが興味をもち、進んで行うように遊びを膨らます。
家庭支援	コロナ禍での個人懇談のあり方をより充実できるように事前に気になることを、聞き取りし、連絡ノートの活用方法の見直しを行い、細かく伝える努力をし、教師の思いと、保護者の思いをともに認め合い、寄り添う。要求と必要性を見極めながら自園の教育方針・幼児教育について共感しあえるよう、家庭支援の在り方について考える。
安全管理	遊びの環境を毎月見直し、子供の姿を捉えて上で、危険性を第一条件で考え、環境を生かしたまま、変化ある遊び場を提供する。また子供たち自身が危険を意識できるよう視覚的配慮の工夫をし、全年齢の子供たちが気づき理解できるようにする。園外遊びではルールの大切さを考え教師同士で話し合いを重ねる。

6，学校関係者の評価

少子化に伴い、園児数減少要因や、未就学児と地域へ向けた園開放を工夫し幼児教育の良さを発信し、良好な運営状態をつくる。

7，財務状況

公認会計士による監査にて、適正に運営されていると認められている。